

## 「腹をくくる」

キリスト者が「証しをする」というのは、とりもなおさずキリストを証しすることです。キリストが生きて働いておられること、いまなお救いの業が継続して行われていることを証明することです。そして証しは、じつは言葉ではなく、文字でもなく、その人の生き方を通して表されなければなりません。その人の言動や生き様を見ていると、キリストが本当に生きて働いておられることがわかる、神の臨在していることがよくわかる、そのように周りに感じさせるのが、本来のキリスト者の証しです。しかしそうなると、キリスト者としては大きなプレッシャーを感じざるを得ません。なぜならキリストを証明できるような毎日をまるで送っていないことに気づかされるからです。

証しするというギリシア語は「マルチュレオー」と言いますが、この単語には「証しする」という意味のほかに、「殉教する」という意味があります。「証しする」というのと、「殉教する」というのと同じ単語なのです。殉教するとなると、キリスト者にはさらに大きなプレッシャーが押し掛かってくるかもしれません。日本語でいえば、これは文字通り「腹をくくる」ということではないでしょうか。信仰を持つとは、腹をくくる大きな出来事です。命がけで生きること、命がけでキリストに従おうとすることなのです。その覚悟を持つことなのです。

何度か学生たちに話したことがあります。私は学生時代に、信仰の大きな変化を経験しました。あるとき、教会の「生活に根差した信仰を考えなくっちゃ」というテーマの修養会に参加したところ、その時の講師の先生が講演の開口一番に「それは違う、信仰に根ざした生活を考えるのだ」と激しく言われたのです。私にとってそれは、強烈な印象として記憶に残っています。すでにクリスチャンではありましたが、そのとき初めて、「信仰」ということに目が開かれました。それは衝撃的な神との新たな出会いでもありました。それまで自分の人生の脇にいて支えてくれる伴走者、困ったときに登場してくれる都合のよいものとして捉えていた神が、まったくひっくり返って、私の根底を支えるもの、支えるだけでなく血液や DNA のようにして私のなかを駆け巡っているお方であることに気づかされたのです。

その経験の大きさゆえに、私は自分の人生に期待をするようになりました。「腹をくくる」覚悟を求められていることに気づくようになりました。そしてこれからも、同じような衝撃的な経験を何度か繰り返しながら、「腹をくくる」覚悟をさせられていくことでしょう。